

第20期運営委員会活動中間報告

於:2012年度臨時総会(2012.2.16, 14:00~)

日本臨床心理学会運営委員長 酒木 保

はじめに

第20期日本臨床心理学会(以下、日臨心)運営委員会(以下、運営委)は、19名の運営委員により、2012年1月の第20期運営委員会第1回運営委員会会議から活動を開始した。

なお、第19期日臨心運営委が、2011年10月30日以後、次期第一回運営委員会時に於いて会務を引き継ぐまでの活動の概要は、以下の通りである。

- ・CP紙173号(第47回日本臨床心理学会大阪大会報告集)の発行(2011年12月14日)。
- ・第47回大会記録を主とする臨心研49-3の準備。
- ・第20期運営委員会第一回会議の準備。

運営委員会議事報告

<第1回運営委員会>

2012年1月8・9日に開催された、第1回運営委では、前期より引き継いだ審議事項、すなわち、1)入会申込書様式の変更、2)学会誌バックナンバーの電子化、および3)新体制の役割分担、4)今後の運営委員会開催時機、5)議事録の作成方式の新手法、6)第48回大会開催概要、7)学会誌の2号体制化について審議された。本年度の大会は、国内(東京)・海外(大連)の2回開催が決定された。年に2度の大会、しかも一つは国際学会としての決行という、二重の初の試みとなる。大連会場は比較民俗学会との協賛。総大会委員長:酒木保、大会副委員長:藤本豊(東京会場担当)、大会事務局長:酒木保。大会開催時期は、8,9月中(東京)11月中(大連)となった。

第一回運営委員会発足時の新体制役割分担は、以下である。

運営委員会役割分担

- ・運営委員長:酒木保
- ・副運営委員長:宮脇稔
- ・事務局長兼渉外担当:戸田游晏
- ・会計担当者:小濱義久
- ・CP担当者:鈴木宗男
- ・HP担当者:鈴木宗男
- ・編集委員会委員長:實川幹朗
- ・編集委員会委員:藤原桂舟, 百田功, 田中章人, 野村一永
- ・研修委員会委員長:菅野聖子
- ・研修委員会委員:高島真澄, 谷奥克己, 宮脇稔, 栗原毅, 酒井良輔
- ・日本心理学諸学会連合:酒木保,(代理:藤本豊)
- ・精神保健従事者団体懇談会:藤本豊, 鈴木宗男
- ・日本学術会議:實川幹朗
- ・心理師国家資格検討委員会委員長:藤本豊
- ・心理師国家資格検討委員会委員:藤本豊
- ・HV小委員会委員長:佐藤和喜雄

- ・ HV小委員会委員：藤本豊，鈴木宗男
- ・ 関東委員会委員長：栗原毅
- ・ 関東委員会委員：関東メンバー
- ・ 関西委員会委員長：百田功
- ・ 関西委員会委員：関西メンバー
- ・ 暫定監事：渡邊三知雄，滝野功

<第2回運営委員会>

2012年2月25日・26日に開催された、第2回運営委では、1) 大会運営における各運営委員の役割、2) 開催日程候補・スケジュール案、3) 参加費、4) 2つの大会の相互の位置付け等、主に大会関連議題が審議された。第48回大会委員長として酒木保が全体統括、以下大連会場実行委員会分掌統括を酒木、実行委員会を酒木・實川・宮脇・戸田で構成し、大会事務局を宇部フロンティア大学に置く。東京会場実行委員会分掌統括を藤本豊、実行行員会を有志に依って形成することが決定した。大会費の配分は、大連・東京各々の運営責任者が、双方費用対効果への配慮とコスト削減に努めた概算を提示し、協議を経た合意の上で行うこととなった。両会場相互の位置付けは、以下のように決定した。「第48回日本臨床心理学会は、大連・東京大会とし、内容的には一体的に運営する。中国大連大学との緊密な連携のもとにこれを開催する。」「正式名称を『第48回日本臨床心理学会大連・東京大会』とする。東京での大会については、(東京会場)、大連での大会については、(大連会場)の表記を用いる。」

そのほかの議案として、5) 学会ロゴの作成、6) 通信会議の導入、7) 会則第12条一部改訂、8) メーリングリスト使用内規制定、9) J-stage登録について、10) 日臨心編『臨床心理学』出版企画の各議題について審議された。5) 学会ロゴについては、作成の可否を次期総会にて審議する。6) 通信会議のメリット・デメリットを勘案し現状ではむしろデメリットが大きいと判断され、対面会議およびメーリングリストによる運営が十分にできていない現状に鑑み、それら既存の仕組みの円滑な運用に努めることとなった。7) 会則一部改訂については、事実を明確化するための議案として提起された。次期総会にての審議とする。8) 9) 10) については継続審議となった。また、「運営委員会のありかた」の検討が、両日の議案検討の場において、随時報告・議論されたが、予定時間内には十分に検討できず、継続審議となった。

なお、この第2回以後の運営委員会においては、議事進行の新たな試みとして以下を試行している。

- 一) 「議案」を設ける。
- 二) 議長を設ける。
- 三) 書記の役割として議事を補佐する権限を設ける。
- 四) 議事記録方式：議事進行と同時に議事録を確定する。：プロジェクトに議決事項を随時掲示し総員確認。
- 五) 「議事録」と「討議・報告要録」二様式を作成する。なお議事は全て録音記録に保存。
- 六) 休憩中の委員間懇談は、原則として議事録としては残さないが、予め議長の了承を経て、内容を、議事の進行を妨げない程度に簡潔に報告できる。告知義務はないものとする。
- 七) 決定事項の一事不再議：一) から六) の手続きを経て審議された運営委員会における決定は、「一事不再議」とする。運営委員は、その決定を遵守し、以後の執行運営に当たるべき責任を負うものとする。

<第3回運営委員会>

8月の東京会場開催時に行われ、大会費配分率等、主に大連会場開催企画詳細案が検討・合意された。

<第4回運営委員会>

第4回運営委は12月1日・2日に開催された。詳細は第四回運営委議事録の通りである。

これら対面会議の間の期間の議事は、メーリングリスト上で行われた。

その他の事務局業務

新体制以降の事務局業務の主なものを挙げる。

- 1) 小濱委員退任により、4月1日より事務局長が会計担当を兼任することとなった。会計書類の一部は5月上旬に落手、残りは7月20日に旧事務所（耕房輝）にて検分の上落手した。これに伴い、郵便振替口座振り出し局を事務局長居住地近隣の兵庫県宝塚市山本郵便局に移動する手続きを行った。
- 2) 会員からの複数の意見申し入れに対し、事務局長および当該事案の関連から編集委員長が対応した。
- 3) 2年滞納会員への会費納入願い、今年度末にて自然退会となった会員への復会願いを、電子メールおよび葉書にて送付し、当該会員からの返信（退会方法問い合わせ等）へ事務局長が個別対応を行った。
- 4) メーリングリスト使用に関わる暫定留意事項を、メーリングリスト議事の議事ルールとして漸次構築しつつある。これを受け、第四回運営委員会において、新たなML使用申し合わせ事項の検討者を事務局長を責任者として発足した。
- 5) 旧事務所保管の財産整理を完了した。

7月20日、事務局長が、旧事務所に出張し、保管財産検分・目録作成し、運営委員会MLにて、目録・現地写真公開。宇部フロンティア大学酒木研究室への学会バックナンバー移管、大阪人間科学大学宮脇研究室への全書協書類等移管、学会事務支援センターへの学会保管用バックナンバー通巻の移管、耕房輝への什器備品・消耗品類寄付、小濱氏への電子機器(PC・fax電話・プリンタ・各備品類)寄贈等を、決定・合意した。運営委員による最終検分を、8月25日19時より行い、学会誌等を各分散保管所に向け発送した。

当該事業の経費および処分品目、寄贈先等については、学会財産処分報告書（目録）を参照頂きたい。

各委員会等報告

1) 編集委員会

2012年8月23日、協和印刷工業株式会社担当者との打ち合わせ（編集委員長）。同年9月29日に大阪市内にて、50-2号以降の責任編集者の選定等。その他の決定・確認事項についてはメール会議を行い、会議費節減に努めた。

2) 精從懇参加

146回（2011年11月）～152回（2012年12月）計7回、鈴木委員、藤本委員が参加。

3) 研修委員会

2013年2月10日、東京にて、公開シンポジウムを企画。

4) HV小委員会

2013年秋の大会までに、2回のワークショップを東京と大阪で開催する企画。

以上